

患者さんへ

## 臨床研究「薬剤アレルギーに関する実態調査」について

筑波大学附属病院薬剤部では、標題の臨床研究を実施しております。  
本研究の概要は以下のとおりです。

### 【研究の意義・目的】

薬剤アレルギーがあると、薬剤を使用した直後から数日後に蕁麻疹や呼吸困難などのアレルギー症状が出現することがあります。症状の程度は、軽いものや生死に関わるような重いものまで広くありますが、進行が速いものは特に危険です。よって、薬剤アレルギー歴は、患者さんが薬物治療を安全に行うために非常に重要な情報です。

しかし、患者さん自身が薬剤アレルギーであると思っても、医師の診断がある、またはアレルギー検査をしている事例は少ないようです。もし薬剤アレルギーではなかった場合、その薬剤を治療に使えなくなってしまうため、治療が遅れてしまう可能性があります。患者さんがより有効で安全な治療を受けられるようにするために、薬剤アレルギー情報の詳細を調査することが重要であると考えています。

また、造影剤に対するアレルギーの場合、アレルギー症状を軽くするために予防薬を投与してから造影剤を使用する場合があります。予防薬にはいくつか種類があり、どの薬剤をどのくらいの期間投与することがアレルギー症状を十分に予防できるのかどうか、まだよく分かっていません。より安全に造影剤を使用していただくため、予防薬の使用状況についても調査をしています。

### 【対象となる患者さん】

筑波大学附属病院において、薬物治療を実施している入院患者さん、および造影剤による検査を実施した患者さんを対象としています。

### 【研究期間】

倫理委員会承認後から2026年3月31日までです。

### 【研究の方法・取り扱うデータ】

以下の内容を診療録（カルテ）より調査します。

#### ① 薬剤アレルギーに関して

薬剤の名前、使用した量と期間、使用方法、過去に使用したことがあるかどうか、使用した目的、他に使用していた薬剤など

#### ② 患者さんに関して

年齢、性別、身長、体重、罹っている病気、過去に罹った病気、アレルギー体質かどうか、血液検査の結果など

③ アレルギーの診断に関して

薬剤使用後にどのような症状が起こったか、どのような対処をしたか、受診したかどうか、アレルギー検査を行ったかどうかとその結果、過去に同じ薬剤を使用して症状が出たことがあるかどうかなど

④ 予防に関して

予防薬を使用したかどうか、使用した薬剤の名前、どのようなスケジュールで使用したかなど

**【個人情報保護の方法】**

患者さんのデータの取り扱いは、第三者が直接患者さんを識別できないように、登録番号を用いて行います。

調査が中止・終了した場合、データは10年間保存した後に消去・廃棄いたします。

**【保有する個人情報に関する利用目的・開示手続】**

この研究から得られた結果は、学会や専門雑誌において発表されますが、いずれの場合にも、患者さんの住所、氏名、生年月日など個人を特定できる情報は一切公表されず、プライバシーは十分に守られます。

**【研究機関名および研究責任者】**

筑波大学医学医療系・筑波大学附属病院薬剤部 本間 真人

**【本研究への参加を希望されない場合】**

ご自身がこの研究の対象であるかを確認されたい場合や、患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

既に研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

**【保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先】**

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1

研究担当者：鈴木 千愛（薬剤部・薬剤師）

連絡先：029-896-7165（薬剤部調剤室、平日8：30～17：00）